

今年で8回目！ 子育てに奮闘する姿を追っていきます
～谷戸沢廃棄物広域処分場内でフクロウが抱卵中～

東京たま広域資源循環組合（管理者：多摩市長 阿部裕行）が管理する谷戸沢廃棄物広域処分場内（東京都日の出町）で、平成28年から8回目となる「フクロウ」の抱卵を3月4日に確認しましたので、お知らせいたします。

当組合では、処分場内の自然環境が豊かになるよう、動植物及び希少生物の保全・生育に取り組んでいます。その取組の一環として、フクロウ用の大型巣箱を場内の樹林に設置していますが、その巣箱でフクロウの営巣を確認することができました。

谷戸沢処分場には、場内に森のほか、池や草原があり、カエルなどのフクロウの餌となる小動物が豊富なため、場内にフクロウが生息しています。

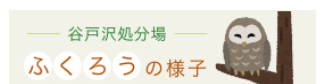
フクロウなどの猛禽類は、処分場内及びその周辺地域の生態系の豊かさを示す指標となります。これからも、当組合では動植物のモニタリング調査を継続的に行い、豊かな自然環境の創出に努めてまいります。



巣箱で抱卵するフクロウの様子
(3月5日)

現在、フクロウは卵を温めています。4月上旬頃には、ヒナの姿を見ることができると思われます。今後は、フクロウの子育て状況を温かく見守ってまいります。この子育て状況については、ヒナの巣立ちまで、循環組合のホームページに写真を掲載していきます。（ただし、アライグマなどに襲われ、営巣を放棄する可能性もあります。）

◆ 循環組合ホームページ：<https://www.tama-junkankumiai.com/>



巣箱内でのフクロウの様子

【 3/4 フクロウの横顔 】



【 3/4 巣箱で確認された2個の卵 】

